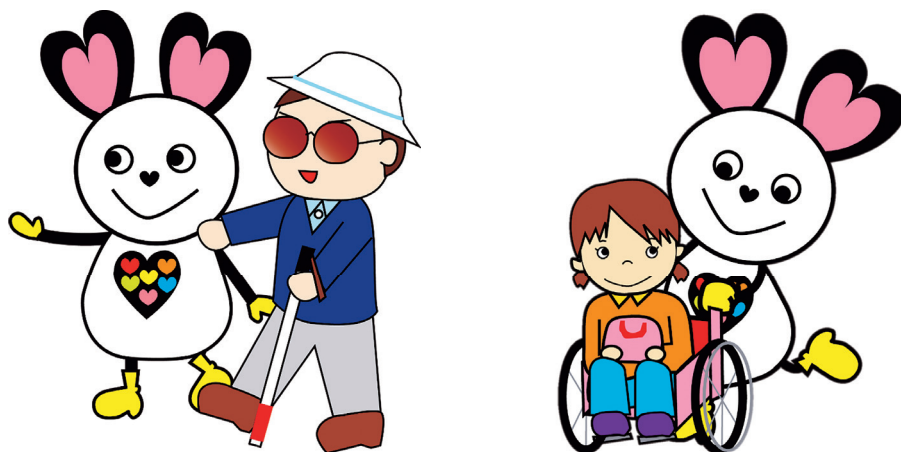


かぞく しえんしゃ かた
ご家族・支援者の方は
よ
こちらもお読みください

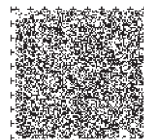
べっさつ
別冊

しょうがい とくせい おう
障害の特性に応じた
さいがいじ そな
災害時の備えは
できていますか？

しえんしゃ かた
【支援者の方へ】

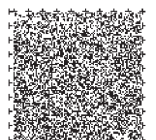


とちぎけんほけんふくしゅしょうがいふくしか
栃木県保健福祉部障害福祉課



もくじ 目次

しょうがいとくせい おう たいおう ＜障害特性に応じた対応＞	2
しかくしょうがいしゃ しえん かた ・視覚障害者を支援する方へ	3
ちょうかくしょうがいしゃ しえん かた ・聴覚障害者を支援する方へ	5
もう しゃ しえん かた ・盲ろう者を支援する方へ	7
おんせいきのう げんごきのう しょうがい もの しえん かた ・音声機能や言語機能に障害のある者を支援する方へ	8
したいふじゆうしゃ しえん かた ・肢体不自由者を支援する方へ	9
ないぶしょうがいしゃ なんびょうかんじゃ しえん かた ・内部障害者、難病患者を支援する方へ	10
ちてきしょうがい はったつしょうがいしゃ しえん かた ・知的障害・発達障害者を支援する方へ	12
せいしんしょうがいしゃ しえん かた ・精神障害者を支援する方へ	14
こうじのうきのうしょうがいしゃ しえん かた ・高次脳機能障害者を支援する方へ	16
いりょうてき ひつよう もの しえん かた ・医療的ケアが必要な者を支援する方へ	17
かんれんじょうほう ＜関連情報＞	18

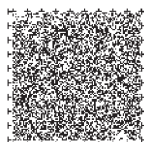


しょうがいとくせい おう たいおう ＜ 障害特性 に応じた対応 ＞

しょうがい とくせい さいがい お とき ひつよう しえん さまざま
障害によって特性や災害が起きた時に必要となる支援は様々です。

おも しょうがい たいおうれい しょうかい
主な障害ごとに対応例を紹介します。

ほか しょうがい さんこう しえん ほうほう かんが
他の障害も参考にしながら、支援の方法を考えてみましょう。



しょうがいとくせい おう たいおう < 障害特性 に応じた対応 >

しかくしょうがいしゃ しえん かた 視覚障害者を支援する方へ①

しょうがい とくせい ○障害の特性

み まった み しかく なん しょうがい しょう じょうたい
見えづらい、全く見えないなど、視覚に何らかの障害が生じている状態です。

み さいぶ わ み はんい せま さまざま じょうたい
「見えづらい」には、「細部がよく分からない」「見える範囲が狭い」など、様々な状態があります。

あいて ひょうじょう みぶ わ はか うえ ごかい しょう
また、相手の表情や身振りが分からないため、コミュニケーションを図る上で誤解が生じることもあります。

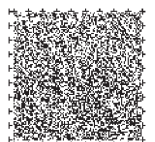
ひなんこうどうじ ひつよう しえん ○避難行動時に必要とされる支援

さいがい はっせい さいがい お つた しゅうい じょうきょう ことば ぐたいてき せつめい
・災害が発生したら、災害が起こっていることを伝え、周囲の状況を言葉で具体的に説明しましょう。

ひなん しえん おこな ひと ひなんろ しょうがいがつ ばあい ぞんざい つた ちゅうい うなが ゆうどう
・避難の支援を行う人は、避難路に障害物がある場合は、存在を伝えて注意を促したり、誘導したりしましょう。

もうどうけん ともな ひと たい ほんにん ほうこうとう せつめい ちやくせつもうどうけん ひ さわ
・盲導犬を伴っている人に対しては、本人に方向等を説明し、直接盲導犬を引いたり、触ったりしないようにしましょう。

ひなんじょう しょういとう じょうきょうせつめい しえんしゃ ゆびとう さ しめ とう
・避難所等で、周囲等の状況説明をするときは、支援者の指等で指し示したり、「あれ、それ」等の指示語は理解できないので、具体的な言葉「右、左、左前50センチメートル」というように、分かりやすい言葉で説明するようにしましょう。



しょうがいとくせい おう たいおう ＜ 障害特性 に応じた対応 ＞

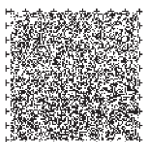
しかくしょうがいしゃ しえん かた 視覚障害者を支援する方へ②

ひなんじょう はいりよ じこう ○避難所等で配慮すべき事項

- かべ いどう ひなん ふくし かくほ つうろう つうこう さまた
・壁づたいに移動できる避難スペース(福祉スペース)を確保し、通路等に通行の妨げになるもの
お
を置かないようにしましょう。
- ぼしよ じぜん かくにん ひなんじやない はいち あんない おくがい かせつ
・トイレなどの場所を事前に確認してもらうため、避難所内の配置を案内するとともに、屋外に仮設
せっち ばあい ゆうどうよう は
トイレを設置する場合は、誘導用のロープを張るようにしましょう。
- ひつよう じょうほう ほうそう こえ とう ていきよう いんさつぶつ かくだいもじ てんじとう
・必要な情報は放送や声かけ等により提供するとともに、印刷物は、拡大文字や点字等により
ていきよう
提供しましょう。
- ぶつし わた ばあい かたち ようと ぐたいてき つた ほんにん て さわ かくにん
・物資を渡す場合は、サイズ、形、用途を具体的に伝え、本人に手で触って確認してもらいましょう。
- はくじょうとう ほそうぐ しょう にちようひんとう いち ことわ か
・白杖等の補装具や使用している日用品等の位置は、断りなく変えないようにしましょう。
- ひなんじよ はいきゅうひん しょくりようひんとう う と れつ なら むずか こべつ わた
・避難所では、配給品(食料品等)を受け取るために列に並ぶことが難しいので、個別に渡すよう
にしましょう。
- ふくし かなら せいがんしゃ かりいん はいち ていきてき じょうきよう はあく しえんしゃ ちか
・福祉スペースには、必ず晴眼者の係員を配置するか、定期的に状況の把握をして、支援者が近
ひなんしゃ つた
くにいることを避難者に伝えるようにしましょう。
- どうなん しょうがい し かた ほんにん いこう かくにん
・盗難リスクにより、障害があることを知られたくない方もいるため、本人の意向を確認しましょう。

おも しゅだん ○主なコミュニケーション手段

- おんせい よ あ おんせい ろくおん おんせい
・音声による読み上げ、音声を録音したCDなどの音声データ
- てんじ かくだいもじ ていど ふと ぶんしょ
・点字、拡大文字(22～28ポイント程度、太ゴシック)の文書
- おんせい せんよう きき つか おんせい よ あ じげん
・音声コード(専用の機器やスマートフォンアプリなどを使って音声で読み上げができる2次元コード)



しょうがいとくせい おう たいおう < 障害特性 に応じた対応 >

ちょうかくしょうがいしゃ しえん かた 聴覚障害者を支援する方へ①

しょうがい とくせい ○障害の特性

ちょうかくしょうがい き き ちょうかく なん しょうがい しょう じょうたい
聴覚障害とは、聞こえづらい、まったく聞こえないなど、聴覚に何らかの障害が生じている状態
です。聞こえ方は様々で、補聴器や人工内耳等を装着している人もいます。

がいけん しょうがい うむ わ うえ ほん なんちょうしゃ はつわ き
また、外見からは障害の有無が分からない上、殆どの難聴者は発話ができるため、聞こえてい
ると誤解されやすく、聞こえずに困っていても周りには気づいてもらにくい障害です。

ほうほう さまざま かみ ほうほう かくにん
コミュニケーション方法も様々なので、紙とペンでコミュニケーション方法を確認してください。

にちじょう げんご しゅわ しょう ひと
日常の言語として「手話」を使用している人もいます。

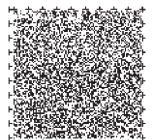
ひなんこうどうじ ひつよう しえん ○避難行動時に必要とされる支援

さいがい はっせい さいがい お しゅうい じょうきょう ひなん さい きけんかしょう いか
・災害が発生したら、災害が起こっていることや、周囲の状況、避難の際の危険箇所等を、以下の
ほうほう つた
方法により伝えましょう。

もじ え め み ほうほう
→文字や絵など目に見える方法

しょうめん おお くち うご みぶ つか はな
→正面から大きく口を動かして身振りを使いながら話す。

ばあい はず
(マスクをしている場合は外す。)



しょうがいとくせい おう たいおう < 障害特性 に応じた対応 >

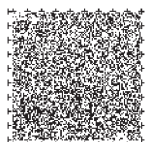
ちょうかくしょうがいしゃ しえん かた 聴覚障害者を支援する方へ②

ひなんじょうど はいりよ じこう ○避難所等で配慮すべき事項

- め じょうほう はい けいじばんちか ひなん かくほ
・目からの情報が入りやすいよう掲示板近くの避難スペースを確保しましょう。
- しょうがい ていど き じょうたい じょうほうしゅとくほうほう しゅわ もじ ほちょうきとう かくにん
・障害の程度(聞こえの状態など)や情報取得方法(手話・文字・補聴器等)を確認しましょう。
- けいじばん でんこうけいじばん もじほうそうよう とう かつよう おんせい れんらく かなら
・掲示板や電光掲示板、文字放送用テレビやメール等を活用するほか、音声による連絡は必ず文字でも掲示しましょう。
- けいじ ことば つか かんじ はいりよ もじ え く あ
・掲示はわかりやすい言葉を使い、漢字にはルビをふるよう配慮するとともに、文字や絵を組み合わせてわかりやすく伝えましょう。
- はな ばあい しかく にんしき ひつよう しょうめん くち おお うご はな
・話す場合は、視覚による認識が必要となるので、正面から口を大きく動かして話しましょう。
- くちびる うご せいかく つた ばあい ひつだん けいたい がめん つか
・唇の動きだけでは正確には伝わらない場合もあるので、筆談や携帯の画面なども使いましょう。
- つね かも ひっきょうぐ けいたい
・常に紙とペン、ミニホワイトボードなど筆記用具を携帯するようにしましょう。
- どうなん しょうがい し かた ほんにん いこう かくにん
・盗難リスクにより、障害があることを知られたくない方もいるため、本人の意向を確認しましょう。

おも しゅだん ○主なコミュニケーション手段

- ひつだん かも か て くらかん ゆび もじ か
・筆談(紙に書く、手のひらや空間に指で文字を書く)
- ようやくひつき はなし ようてん かも ひょうじ
・要約筆記(話の要点をまとめ、紙やスクリーンに表示する)
- しゅわ て ゆび ひょうじょう からだ ひょうげん しかくげんご
・手話(手や指、表情、体で表現する視覚言語)
- どくわ あいて くち うご ことば よ と
・読話(相手の口の動きで言葉を読み取る)
- スマートフォンやタブレット等のコミュニケーション支援アプリ



しょうがいとくせい おう たいおう < 障害特性 に応じた対応 >

もう しゃ しえん かた 盲ろう者を支援する方へ

しょうがい とくせい ○障害の特性

しかく ちょうかく りょうほう しょうがい ひと もう しゃ
視覚と聴覚の両方に障害のある人を「盲ろう者」といいます。

もう しゃ しょっかく のこ しりよく ちょうりよく かつよう かいわ
盲ろう者は、触覚や残された視力、聴力を活用してコミュニケーションをとりますが、会話やテレビ、
ラジオを楽しむことも 難しいため、情報が極端に限られてしまいます。

がいしゅつ つうじょう かぞく つうやくかいじょいん どうはん
また、外出するときには、通常、家族や通訳介助員が同伴しています。

ひなんこうどうじ ひつよう しえん ○避難行動時に必要とされる支援

さいがい さい じょうきょう はんだん ひなん こうどう こんなん まわ ひと はな じょうきょう
・災害の際に状況を判断して避難するなどの行動をとることが困難で、周りの人に話しかけて状況
を尋ねることも 難しいため、周囲の人がそっと腕を持って安全な場所に誘導したり、支援者につ
なぐ配慮が必要です。

ひなんじょう はいりょ じこう ○避難所等で配慮すべき事項

しかく ちょうかく しょうがい ちょうふく ひと あ ほうほう しょくしゅわ てんじ
・視覚と聴覚の障害が重複しているため、その人に合わせたコミュニケーション方法(触手話、点字、
指文字等)が必要です。

しょうがい おも ばあい じたくいがい ばしょ まわ じょうきょう わ ぜんめんてき かいじょ ひつよう
・障害が重い場合は、自宅以外の場所では周りの状況が分からないため、全面的に介助が必要
であり、盲ろう者向け通訳・介助員の派遣が必要となります。

どうなん しょうがい し かた ほんにん いこう かくにん
・盗難リスクにより、障害があることを知られたくない方もいるため、本人の意向を確認しましょう。

おも しゅだん ○主なコミュニケーション手段

て が て ゆび もじ か
・手のひら書き(手のひらに指などで文字を書く)

おんせい ざんぞんちょうりよく き と
・音声(残存聴力で聞き取る)

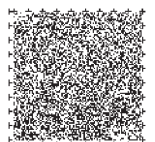
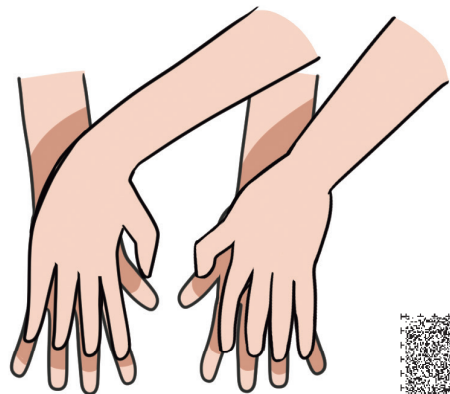
せっしんしゅわ み はんい ちか しゅわ おこな
・接近手話(見える範囲に近づいて手話を行う)

しょくしゅわ しょくしもじ
・触手話、触指文字

て ふ あら しゅわ かたち て よ と
(手に触れて、表わしている手話の形を手で読み取る)

てんじ
・点字

ゆびてんじ てんじ もう しゃ ゆび たた
・指点字(点字タイプライターのように、盲ろう者の指を叩く)



しょうがいとくせい おう たいおう ＜ 障害特性 に応じた対応 ＞

おんせいきのう げんごきのう しょうがい もの しえん かた
音声機能や言語機能に障害のある者を支援する方へ

しょうがい とくせい ○障害の特性

おも しょうがい
＜主な障害＞

こうおんしょうがい
・構音障害

こうしん した はとう こうおんきかん こうぞう きのう いじょう しょう しょうがい せいかく はつおん はっせい
口唇・舌・歯等の構音器官の構造や機能に異常があるために生じる障害で、正確な発音や発声
むずか じょうたい
が難しい状態です。

しつごしょう
・失語症

のうこうそく のうしゅつけつ のう げんごきのう ちゅうすう そんしょう げんごきのう せいじょう
脳梗塞や脳出血などにより脳の言語機能の中樞が損傷されることにより、言語機能が正常に
はたら じょうたい き はな よ か しょうがい
働かなくなった状態で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことがうまくできなくなる障害です。
ひと しょうじょう かた さまざま
人によって症状のあらわれ方は様々です。

したいふじゆうとう しょうがい ばあい ばあい したいふじゆう かた さんこう
肢体不自由等の障害がある場合もあるので、その場合は「肢体不自由のある方」も参考にしてく
ださい。

ひなんこうどうじ ひつよう しえん ○避難行動時に必要とされる支援

ひつよう おう あんびかくにん おこな さいがい お つた
・必要に応じて安否確認を行い、災害が起きていることを伝えましょう。

もじ え しゅだん つか じょうほうでんたつ おこな
・文字や絵など、あらゆる手段を使った情報伝達を行きましょう。

ひなんじょう はいりょ じこう ○避難所等で配慮すべき事項

まどぐち よ りん ようし ひつきようぐ ようい
・窓口に呼び鈴やブザー、メモ用紙や筆記具を用意しましょう。

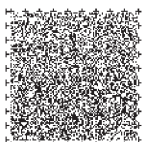
き と いちど ねが つた
・聞き取れないときは「もう一度お願いします」と伝えましょう。

げんごきのう しょうがい ばあい かぞく にちじょう おうとう とくせい き
・言語機能の障害の場合は、家族などから日常の応答の特性を聞いておきましょう。

おも しゅだん ○主なコミュニケーション手段

しえん もじ とう ゆび いしそつう はか
・コミュニケーション支援ボード(文字やイラスト等を指さして、意思疎通を図るツール)

とう しえん
・スマートフォンやタブレット等のコミュニケーション支援アプリ



みじか ことば わ ひょうげん りょう
・短い言葉や分かりやすい表現の利用

ひょうじょう みぶ てぶ
・表情 や身振り、手振り

ず
・図やイラスト

しょうがいとくせい おう たいおう < 障害特性 に応じた対応 >

したいふじゆうしゃ しえん かた 肢体不自由者を支援する方へ

しょうがい とくせい ○ 障害の特性

したいふじゆう てあし からだ きのう しょうがい しょう じょうたい ある すわ て ゆび つか
肢体不自由とは、手足や体の機能に障害が生じている状態です。歩く、座る、手や指を使って
さぎょう はな にちじょう さまざま どうさ むずか ひと
作業をする、話すなど、日常の様々な動作が難しい人がいます。

ひょうじょう おも ひと たいおん けつあつ ちょうせつ むずか ひと
また、表情が思うようにならない人や、体温や血圧の調節が難しい人もいます。

ひなんこうどうじ ひつよう しえん ○ 避難行動時に必要とされる支援

じりき ひなん こんなん ばあい くるま どう いどうようぐ ひつよう
・自力での避難が困難な場合は、車いす、ストレッチャー等の移動用具が必要となるので、あらか
じめ準備しておきましょう。

じぶん ひなん こんなん ばあい かた てき ほうほう ほんにん かぞく かくにん しえん
・自分ですばやく避難することが困難な場合は、その方に適した方法を本人や家族に確認し、支援
しましょう。

じりきほう すばや ひなんこうどう こんなん ばあい へいじょうじ しょう ひと くるま どう ひつよう
・自力歩行や素早い避難行動が困難な場合は、平常時に使用していない人も、車いす等が必要
なこともあります。

くるま りょう かた こえ だんさ みぞ じゃりみち つうか しえん はいりよ
・車いすを利用している方への声かけや、段差・溝・砂利道の通過の支援などの配慮をしましょう。

ひなんじょう はいりよ じこう ○ 避難所等で配慮すべき事項

しんたいきのう あんぜん りょうかのう たもくてき ようい ちか ひなん
・身体機能にあった、安全に利用可能な多目的トイレを用意し、できるだけトイレに近い避難スペー
ス確保しましょう。

くるま つえ しょう つうろ かくほ
・車いすや杖などが使用できるスペースや通路を確保しましょう。

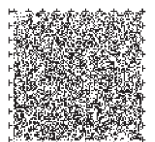
くるま りょうしゃ りょう の お たいへんこんなん
・車いすの利用者はベッドを利用しないと、乗り降りが大変困難になります。

かた てき しえんほうほう ほんにん かぞく かくにん しえん
・その方に適した支援方法を本人や家族に確認し、支援しましょう。

れつ なら ばあい しょくじ はいふ こべつ とど
・列に並べない場合などは、食事などの配布は個別に届けましょう。

おも しゅだん ○ 主なコミュニケーション手段

いしでんたつそうち ほんにん いし からだ いちがぶん うご かんち もじ おんせい あらわ きき
・意思伝達装置(本人の意思を、体の一部分の動きを感知して文字や音声で表す機器)



しょうがいとくせい おう たいおう ＜ 障害特性 に応じた対応 ＞

ないぶしょうがいしゃ なんびょうかんじゃ しえん かた 内部障害者、難病患者を支援する方へ①

しょうがい とくせい ○障害の特性

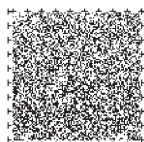
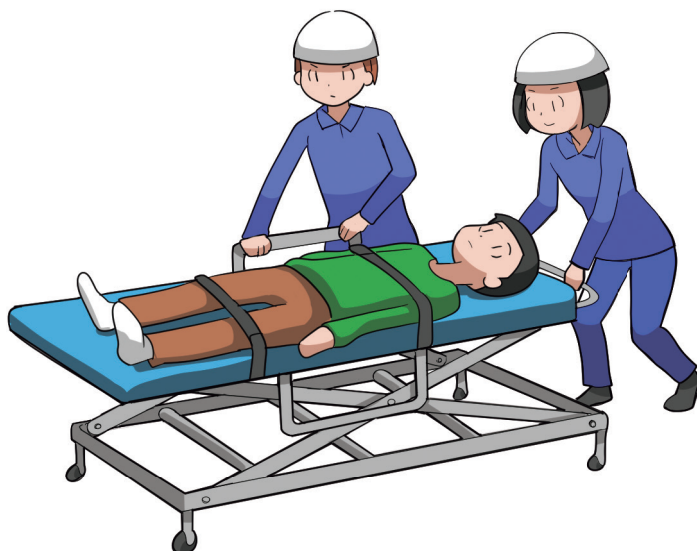
ないぶしょうがい ないぞうきのう しょうがい しょう じょうたい しんぞう こきゅうき ぼうこう ちよくちよう じんぞう
内部障害とは、内臓機能に障害が生じている状態です。心臓や呼吸器、膀胱・直腸、腎臓など
ないぞうきのう ていか つか たいりよく ていか
の内臓機能が低下しているため、疲れやすかったり体力が低下していたりします。

なんびょう はつびょう げんいん あき こんぽんてき ちりょうほうほう じゅうぶん かくりつ きしょう
難病とは、発病の原因が明らかでなく、根本的な治療方法が十分には確立していない希少な
しっぺい なんびょう さまざま おな しっぺい ひと しょうじょう こと
疾病です。難病には様々なものがあり、同じ疾病であっても人によって症状は異なります。そして、
おお がいけん びょうじょう ていきてき ふくやく つういん きゅうそく ひつよう
その多くは、外見から病状がわかりにくくなっています。定期的な服薬や通院、休息などが必要
ばあい ひと びょうじょう あ はいりよ おお ひと しごと がっこうせいかつ
な場合もありますが、その人の病状に合わせた配慮があれば、多くの人が仕事や学校生活など
おく
を送ることができます。

ないぶしょうがい なんびょう しょう しょうがい さまざま ほか しょうがいとくせい おう たいおう さんこう
内部障害や難病により生じる障害は様々であるため、「他の障害特性に応じた対応」も参考
にしてください。

ひなんこうどうじ ひつよう しえん ○避難行動時に必要とされる支援

- じりきほこう すばや ひなんこうどう こんなん ばあい くるま どう いどうようぐ しょう
・自力歩行や素早い避難行動が困難な場合は、車いす、ストレッチャー等の移動用具の使用によ
ひなんしえん ひつよう
る避難支援が必要となります。
- いりようきぎとう じんこうこきゅうき さんそ うんぱん てだす ひつよう ばあい
・医療機器等(人工呼吸器、酸素ボンベなど)の運搬に手助けが必要となる場合があります。
- ひつよう おう いりようきかんとう れんけい しえん いそうしゅだん かくほ
・必要に応じて、医療機関等との連携や支援により、移送手段を確保しましょう。
- ふくやく けいぞく ふくようやく ぐすりてちょう も ひなん
・服薬が継続できるよう、服用薬やお薬手帳を持って避難しましょう。



しょうがいとくせい おう たいおう < 障害特性 に応じた対応 >

ないぶしょうがいしゃ なんびょうかんじゃ しえん かた 内部障害者、難病患者を支援する方へ②

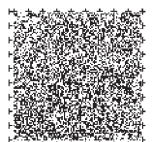
ひなんじょう はいりよ じこう ○避難所等で配慮すべき事項

- ・避難所では、ケアのできるスペースを確保し、感染防御機能に障害等があり感染リスクの高い方には、感染症の危険を避けるため環境に留意しましょう。
- ・ヘルプカードなど、緊急時の医療情報や支援方法が書かれているものがあれば、確認しましょう。
- ・特殊な薬剤や食事制限等の疾患に関する必要な情報を確認しましょう。
- ・処置を行う場所やプライバシーの確保に留意しましょう。
- ・人工肛門・人工ぼうこうの有無は、プライバシーに配慮した聞き取りを行いましょう。
- ・名簿に登載されていない要配慮者に向けて、テレビ、ラジオ、新聞、広報紙等で、必要な治療等の救急医療体制に関する情報を提供しましょう。

おも しゅだん ○主なコミュニケーション手段

ないぶしょうがい なんびょう いしそつう むずか かた
(内部障害や難病により意思疎通が難しい方)

- ・意思伝達装置(本人の意思を、体の一部分の動きを感知して文字や音声で表す機器)
- ・文字盤、透明文字盤、口文字
- ・スマートフォンやタブレットなどのコミュニケーション支援アプリ



しょうがいとくせい おう たいおう ＜ 障害特性 に応じた対応 ＞

ちてきしょうがい はったつしょうがいしゃ しえん かた 知的障害・発達障害者を支援する方へ①

しょうがい とくせい ○ 障害の特性

ちてきしょうがい ・知的障害

おおむね18歳までに知的な機能の発達に障害が生じている状態で、何らかの支援が必要です。
しょうがい じょうたい ひとり こと ひと はったつ りかい しえん しごと
障害の状態は一人ひとり異なります。それぞれの人の発達を理解した支援によって、仕事や
にちじょうせいかつ おく よか たの
日常生活を送ったり、余暇を楽しんだりすることができます。

はったつしょうがい ・発達障害

はったつしょうがい じへいしょう しょうこうぐん ふく こうはんせい はったつしょうがい じへいしょう
発達障害は、自閉症やアスペルガー症候群を含む広汎性発達障害(自閉症スペクトラム)、
ちゅういけっかんたどうせいしょうがい がくしゅうしょうがい そうしょう にんち げんご うんどう しゃかいてき
注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)などの総称です。認知や言語、運動、社会的な
のうりよく ぎじゆつ しゅうとく とくい ふとくい
能力や技術の習得などに得意・不得意があります。

また、一人ひとり特性が異なるため、その人に応じた接し方や合理的配慮が望まれます。

ひなんこうどうじ ひつよう しえん ○ 避難行動時に必要とされる支援

ひなんゆうどうじ ひとり ひとり きげん せま ばあい きんきゆう ほご
・避難誘導時は一人にしないようにし、一人でいるときに危険が迫った場合には、緊急に保護しま
しょう。

せいしんてき ふあんてい どうよう きも お つ わ
・精神的に不安定にならないよう、動揺している気持ちを落ち着かせながら、ゆっくりと分かりやすく

ひなん ひつよう せつめい
避難が必要なことを説明しましょう。

いし つう ばあい おお こえ だ ていねい おうたい ところ
・意思が通じない場合でも大きな声を出さず、丁寧な対応を心がけましょう。

こえ とき みじか ぐたいてき ひてい ところ みじか ことば こうていてき
・声をかける時は「短く、ゆっくり、具体的に、否定をしない」を心がけ、短い言葉で肯定的に(やっ

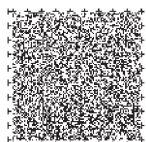
つた
てほしいことを)伝えましょう。

つた もじ え みぶ つか はな え
・伝わらないときは、文字、絵、身振りを使って話しかけるようにしましょう。絵カード(コミュニケー

しえん しかくてき くふう こうかてき
ション支援ボード)など視覚的な工夫をすることも効果的です。

ふくようやく ばあい の くすり くすりてちょう も ひなん
・服用薬がある場合は、飲んでいる薬やお薬手帳を持って避難しましょう。

かくにん
・ケガをしていないか、よく確認しましょう。



しょうがいとくせい おう たいおう < 障害特性 に応じた対応 >

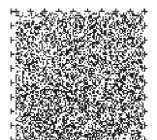
ちてきしょうがい はったつしょうがいしゃ しえん かた 知的障害・発達障害者を支援する方へ②

ひなんじょう はいりよ じこう ○避難所等で配慮すべき事項

- しゅうい ひと あたた め みまも
・周囲の人は温かい目で見守りましょう。
- かんかくかびん たいいくかん おと はんきょう ばしょ ひと おおぜい ばしょ はい ばあい おお
・感覚過敏で、体育館など音の反響する場所や人が大勢いる場所は入れない場合が多いので
はいりよ ひつよう
配慮が必要です。
- しゅうい じゅうぶん げんいん かんきょう へんか せいしん
・周囲とのコミュニケーションが十分とれずトラブルの原因となったり、環境の変化のために精神が
ふあんてい かぞくたんい まじき こしつ かくほ はいりよ ひつよう
不安定になることがあります。家族単位での間仕切りや、個室の確保など配慮が必要です。
- かぞく ほんにん じょうたい ひと ちか ばあい かなら かか かた かくにん ひつよう
・家族など本人の状態をよくわかっている人が近くにいる場合は、必ず関わり方を確認し、必要に
おう しゅうい つた
応じて周囲に伝えましょう。
- てじゆん じかん ぐたいてき わた もじ え じつぶつ つか め み かたち せつめい
・手順や時間などを具体的にメモで渡したり、文字や絵、実物を使って目に見える形での説明を
おこな かんけつ おだ こえ はな
行い、簡潔・穏やかな声で話しかけましょう。
- きけん こうい めいわく こうどう ばあい こうていてき ことば ぐたいてき つた
・危険な行為や迷惑な行動をしている場合は、肯定的な言葉で具体的に伝えましょう。

おも しゅだん ○主なコミュニケーション手段

- みじか ことば わ ひょうげん りよう
・短い言葉や分かりやすい表現の利用
- ぐたいてき ひょうげん りよう
・具体的な表現の利用
- ふ もじ
・ルビを振った文字
- しえん
・コミュニケーション支援ボード
(文字やイラスト等を指さして、意思疎通を図るツール)



しょうがいとくせい おう たいおう ＜ 障害特性 に応じた対応 ＞

せいしんしょうがいしゃ しえん かた 精神障害者を支援する方へ①

しょうがい とくせい ○ 障害の特性

せいしんしつかんとう にちじょう さまざま かつどう しゃかいさんか うえ こんなん じょうたい
精神疾患等により、日常の様々な活動や社会参加をする上で困難がある状態です。

のう きしょうがい かんが だれ みぢか しょうがい
脳の機能障害と 考えられており、誰もがなりうる身近な障害です。

おも せいしんしつかん ＜ 主な精神疾患 ＞

きぶんしょうがい ・ 気分障害

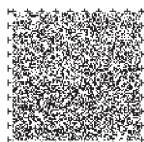
きぶん なみ おも しょうじょう びょうき きぶん お こ ふあん とくちょう
気分の波が主な症状としてあらわれる病気です。気分の落ち込みや不安などを特徴とする「うつ病」と、気分の落ち込みや気分の高揚などの特徴を繰り返す「双極性障害(躁うつ病)」等があります。

・ てんかん

いちじてき のう かじょう こうぶん ほっさ お びょうき いしきしょうがい ともな からだ いちぶ
一時的に脳が過剰に興奮することにより発作が起こる病気です。意識障害を伴わずに体の一部がけいれんする発作、嗅覚や聴覚に異常があらわれる発作、意識障害を伴う発作など、人によってさまざまなタイプの発作があり、その頻度も様々で、運転や高所の作業などについて制限が必要な場合もあります。

とうごうしつちょうしょう ・ 統合失調症

のう さまざま はたら むずか げんかく もうそう しょうじょう
脳の様々な働きをまとめることが難しくなるために、幻覚や妄想などの症状があらわれます。また、日常生活や社会生活において、適切な会話や行動や作業ができにくいという生活の障害もあらわれることがあります。



しょうがいとくせい おう たいおう < 障害特性 に応じた対応 >

ひなんこうどうじ ひつよう しえん ○避難行動時に必要とされる支援

- ひなんゆうどうじ ひとり きも お つ ひつよう
・避難誘導時は一人にしないようにし、気持ちを落ち着かせることが必要です。
- やかん ふくやく しゅうしん さいがい お きづ ばあい
・夜間など服薬して就寝していると、災害が起きたことに気付かない場合があります。
- せつめい わ く かえ つた ひつよう ひと しほ ぐたいてき つた
・説明ははっきり分かりやすく繰り返し伝え、必要な一つのことに絞り具体的に伝えましょう。
- てじゅん せつめい いちど おこな だんかいてき おこな
手順の説明は一度に行わず段階的に 行いましょう。
- あいまい ひょうげん てきとう こんらん もと
・曖昧な表現(「適当に」など)は混乱させる元になります。
- ふくやく けいぞく の くすり くすりてちょう も ひなん
・服薬が継続できるよう、飲んでいる薬やお薬手帳を持って避難しましょう。

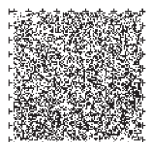
せいしんしょうがいしゃ しえん かた 精神障害者を支援する方へ②

ひなんじょうと はいりよ じこう ○避難所等で配慮すべき事項

- しゅうい ひと ほんにん じょうたい おう たいおう こころ はなし き う と こりつ ふせ
・周囲の人は、本人の状態に応じた対応を心がけ、話を聞いてしっかり受け止め、孤立を防ぎま
しょう。
- ほか ひなんしゃ せいしんしょうがい りかい こんなん せいしんしょうがいしゃ かぞく こりつ
・他の避難者が精神障害を理解することが困難なために、精神障害者やその家族が孤立してしま
う場合は、家族や知人、仲間と一緒に生活できるように家族などの単位でパーティションで区切る
などの配慮が必要です。
- ほんにん じょうたい ひとり ばしょ かくほ ひつよう
・本人の状態により、一人でいられる場所を確保することも必要です。
- しゅうい ひと ささい へんか き ばあい しゅじい そうだん しえんしゃとう つた
・周囲の人が些細な変化に気づいた場合は、主治医に相談するよう支援者等に伝えましょう。
- き と しんりょう さい じゅうぶんはいりよ ひとまえ あんい びょうめいどう ぐち
・聞き取りや診療の際はプライバシーに十分配慮するとともに、人前で安易に病名等を口にしない
ようにしましょう。

おも しゅだん ○主なコミュニケーション手段

- ひてい けいちよう
・否定せず傾聴する。



しょうがいとくせい おう たいおう ＜ 障害特性 に応じた対応 ＞

こうじのうきのうしょうがいしゃ しえん かた 高次脳機能障害者を支援する方へ

しょうがい とくせい ○障害の特性

じこ びょうき のう そんしょう う ちゅうい しこう きおく げんご こうい かんじょう
事故や病気などで脳に損傷を受けたことにより、注意・思考・記憶・言語・行為や感情のコン
ロールなどが 難しい状態です。複数の症状があらわれるのが一般的で、そのあらわれ方は大
きく個人差があります。

がいけん しょうじょう しゅうい りかい ごかい
また、外見ではわかりにくい症状もあるため、周囲の理解がないと、誤解やトラブルなどの
原因になります。後天性の障害であることから、本人も自分の障害を十分に認識できない
ことがあります。

かど きんちょう のう ひろう たんじかん たいちょう おお へんか ばあい
また、過度の緊張による脳の疲労から、短時間のうちに体調が大きく変化する場合があります。

ひなんこうどうじ ひつよう しえん ○避難行動時に必要とされる支援

てきかく じょうきょうはんだん じぶん いばしょ ひつよう おう
・的確な状況判断ができなかったり、自分の居場所がわからなくなったりするので、必要に応じ
て避難所への避難支援が必要となります。

ひなんじょう はいりよ じこう ○避難所等で配慮すべき事項

つね みまも ひつよう
・常に見守りが必要です。

だいじ わ ぐたいてき つた わた
・大事なことは、「ゆっくり、分かりやすく、具体的に」伝えたり、メモにして渡しましょう。

きおくしょうがい さいきん おぼ ばあい く かえ せつめい ほんにんせんよう
・記憶障害で、ごく最近のことを覚えていない場合は、繰り返し説明したり、本人専用のノートを
備忘録として用意しましょう。

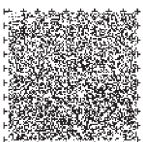
おも しゅだん ○主なコミュニケーション手段

みじか ことば わ ひょうげん りよう
・短い言葉や分かりやすい表現の利用

ぐたいてき ひょうげん りよう
・具体的な表現の利用

しえん
・コミュニケーション支援ボード

もじ どう ゆび いしそつう はか
(文字やイラスト等を指さして、意思疎通を図るツール)



しょうがいとくせい おう たいおう < 障害特性 に応じた対応 >

いりょうてき ひつよう もの しえん かた 医療的ケアの必要な者を支援する方へ

しょうがい とくせい ○障害の特性

じんこうこきゅうき い どう しょう きゅういん けいかんえいよう いりょうてき ひつよう じょうたい
人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な状態です。
ね かた かた いりょうてき かつどう かた かた
寝たきりの方から、医療的ケアがあれば活動できる方まで、さまざまな方がいます。

ひなんこうどうじ ひつよう しえん ○避難行動時に必要とされる支援

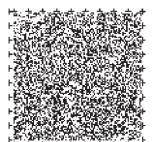
- ひなんじ かか くま ひつよう いりょうききとう うんぱん てだす
・避難時には、抱えてもらったり、リクライニング車いすが必要となり、医療機器等の運搬に手助けが必要となる場合がありますので、あらかじめ支援者を決めておきましょう。
- ちゅうしゃじょう ていどひろ ひつよう ばあい
・駐車場やエレベーターでは、ある程度広いスペースが必要となる場合があります。
- いりょうてき ひつよう かた きんきゅうてき いりょうきかん れんらく いそう てはい ひつよう ばあい
・医療的ケアが必要な方は、緊急的に医療機関への連絡や移送の手配が必要になる場合があります。

ひなんじょう ばいりょ じこう ○避難所等で配慮すべき事項

- しゅうい てつだ こえ かくにん
・周囲が手伝うことがないか、声をかけ確認しましょう。
- くるま りよう こうかん ふくしひなんじょ ふくしひなん かぞく いっしょ
・車いすの利用、オムツ交換などができる福祉避難所や福祉避難スペースで、家族が一緒にいられるスペースを確保しましょう。
- くるま しょう つうろ かくほ
・リクライニング車いすが使用できる通路を確保しましょう。
- かんせんしょう きけん さ かんきょう りゅうい
・感染症の危険を避けるため、環境に留意しましょう。
- かた きゅうえんがっし はいふ き くば
・ケアをしている方への救援物資の配布にも気を配りましょう。

おも しゅだん ○主なコミュニケーション手段

- いしでんたつそうち ほんにん いし からだ いちぶぶん うご かんち もじ おんせい あらわ きき
・意思伝達装置(本人の意思を、体の一部分の動きを感知して文字や音声で表す機器)



かんれんじょうほう < 関連情報 >

1 危機管理・防災ポータルサイト

「<https://www.pref.tochigi.lg.jp/kurashi/bousai/index.html>」



・リアルタイム情報

防災・災害関連の各種リアルタイム情報を紹介しています。

・防災メール登録

防災・災害情報をメールを用いてお知らせします。

他にも、土砂災害情報やライフライン情報等を掲載しています。

2 栃木県公式LINE

「<https://www.pref.tochigi.lg.jp/c05/kouhou/line.html>」



観光・イベント情報、議会活動などの最新情報や、防災情報を集めたリッチメニューを配信しています。原則、水・金曜日に配信していますが、災害情報等は必要に応じて随時配信します。

3 NHK「災害時障害者のためのサイト」

「<https://www.nhk.or.jp/bousai/shougai sha/index.html>」



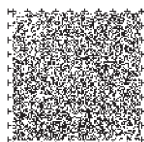
大災害が発生した時、支援を要する障害者や高齢者への情報を掲載することが目的であり、日頃からどのように災害に備えればいいのか、防災や減災のためのヒントを障害等別にまとめています。

4 栃木県障害者ICTサポートセンター

「<https://tochigi-ict.net/>」



ICT機器のトラブルや使い方をサポートするとともに、スマートフォンアプリ等のICTに関するお役立ち情報も紹介しています。



令和5(2023)年3月発行

【発行】栃木県保健福祉部障害福祉課 〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20

【電話】028-623-3490 【ファックス】028-623-3052

【メールアドレス】syougai-fukushi@pref.tochigi.lg.jp